

学校教育グループ

－ 今後の授業改善に向けて －

今後の授業改善を進める上で最も大切にしていきたいことを以下に示します。

学習指導要領解説や国立教育政策研究所の資料、教科書等を照らし合わせ、「ねらい」を吟味し直すこと

学習指導要領に示されている内容の確実な定着を図り、目標を実現するために、1単位時間の「ねらい」を明確にする必要があります。そのためには、＜①学習指導要領の目標や内容に照らし合わせて妥当であるか ②児童生徒が具体的に何をどのようにできればよいのか＞の二点から吟味することが大切です。特に、②の吟味が重要です。小学校5年算数の「平面図形の面積」を例に示します。

＜最初に設定したねらい＞ 平行四辺形の面積の求め方を考えることができる。

吟味が不十分な場合

十分吟味された場合



多様な方法で考えさせたい。(手段と目的を混同している。)

既習の長方形の面積の求め方を基に考えさせ、論理的な考えなど数学的な考え方を育成したい。



＜最終的に設定したねらい＞  
平行四辺形の面積の求め方を、いろいろな方法で考えることができる。

＜最終的に設定したねらい＞  
平行四辺形の面積の求め方を、既習の長方形の面積の求め方に帰着して考えることができる。



↓ 小学校学習指導要領解説算数編参照  
↓ 国立教育政策研究所の資料参照

＜学習活動＞

【自力解決の場】色々な方法が出るよう、自力解決の時間を十分にとる。ヒントカードを用意したり、実際に平行四辺形を切れるように準備したりする。

※ねらいが曖昧なため、①②③の方法が出なかったり、④⑤の方法が出たりする。

①

②

③

④ マス目を数える

⑤ 細かく切って長方形を作る

【集団思考の場】各方法についての妥当性を確認したあと、それぞれのよさに気付かせていく。(子どもに見通しをもたせていないため、④⑤の妥当性の判断が難しい。また、意見の交流が充実しないので、身に付けるべき力が付きにくい。)

＜学習活動＞

【自力解決の場】既習事項の活用に目が向くよう、見通しをもたせた上で自力解決をさせる。方法や考えの根拠をワークシートに記述させる。

※ねらいの達成に向けて意図的な支援ができるため、ねらいに沿った方法が出てくる。

①

②

③

【集団思考の場】各方法についての説明や考えの根拠を述べさせ、妥当性を確認する。そのあと「共通点と相違点」という視点から意見を交流させ、既習事項を活用して問題解決をするよさに気付かせていく。(次時の公式化へ繋げることが可能となる。)